

精華町地域公共交通会議 議事要旨

■日時・場所

- 平成 27 年 8 月 17 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分
- 精華町役場 5 階 501・502 会議室

■内 容

1. 開 会（事務局）

- 委員紹介
- 事務局紹介

2. 精華町地域公共交通検討調査の報告及び今後の取組み

- 精華町地域公共交通検討調査及び今後の取組みについて、事務局から報告。

【精華町地域公共交通検討調査の報告について（資料①）】

- ・本調査は、精華くるりんバスが運行開始 10 年目を迎え地域情勢が変化する中、コミュニティバスなどのあり方や運行案などについて検証を行っていく必要があるため、精華町の公共交通の課題やニーズを抽出したものである。
- ・第 1 章から第 3 章は町内の公共交通の現況や課題を整理したものである。第 4 章から第 6 章については具体的な運行案などをシミュレーションしているが、直ちにこれに従って運行を変えるものではないため、参考扱いとしている。

【今後の取組みについて（資料①－1）】

- ・当面は現行の精華くるりんバスの運行形態を存続することを基本としながら、持続可能な運行を維持する方向で展開する。
- ・上記のことを踏まえた上で北ルート、南ルートに分けて案を検討。
- ・北ルートについては、狛田駅東駅前広場の整備が今年度末に完了予定であることと、将来駅周辺に商業施設などの立地が見込まれることから、狛田駅へのバスの誘導を基本とした走行ルートの見直しを検討する。
- ・南ルートについては、比較的公共交通網が整備されていることから、精華くるりんバスから路線バスへの乗継などを検討する。

（委 員）

精華町のコミュニティバスの利用状況について、他の自治体と比べて特別に利用者が少ないということはないか。

（委 員）

コミュニティバスについては、自治体ごとに思惑があるので、一概に利用状況で良し悪しを判断できない。利用状況も大事であるが、走らせている目的の方が大事である。

（委 員）

コミュニティバスは行政が勝手に走らせているものという意識が住民にはあり、自分たちが利用することにより何とか維持していかなければならないという意識を住民の方々は

持っていない。

ただ、京都府北部の方は、行政が住民に利用を呼び掛けることにより、自分たちが使うことでバスを維持できるという意識をもってもらうように働きかけると同時に、商店街とのタイアップなど、利用を促進するような取組みを行っているところもある。

要するに、行政自ら利用を呼び掛けることが大切である。

また、コミュニティバスの運行を考えると、精華町の場合は路線バスも考慮して運行しているが、中にはコミュニティバスのことしか考えないというところもある。

しかし、本来コミュニティバスは路線バスを補完する役割を担っているものであり、その意識を地交会などの内部だけで持つのではなく、住民が持つことが大切である。

例えば、交通不便地域の自治会において、公共交通に関する懇談会を開いて、この地域には公共交通が必要なのかどうかという部分まで議論していただき、必要となった場合は維持費の負担をどうするのかといった具体的な部分まで話し合うことも必要である。

宇治市の事例であるが、去年路線バスが撤退するという話が持ち上がった。

その際に、市が地元自治会との対話を深めて、路線バスの赤字を市と地元自治会で半分ずつ負担するという仕組みを作った。

ひと月経って一世帯の負担を計算したところ、一世帯につきひと月300円の負担であるという結果が出た。

もちろん、もっと利用すれば負担額は減るので、このように、バスの運行に対してどれだけ負担しているのかといことを住民に知っていただくことにより、利用者の増加につながる。

(委員)

今までまとめることができていなかった部分がまとめられている。

しかし、使われているデータが古いので、近年の高齢化に対応できていない部分もある。

報告書のシミュレーションでA案、B案、C案とあるが、これの数値に関しても、条件設定で大きく変わってくるので、参考扱いとして今後のルート案等を考えていくべきではないか。

交通困難者（報告書の4-4ページにおいて、「歩行に困難を伴う人」「何らかの交通手段で身体的困難がある人」と定義づけられている）への対応について、10年前の精華くるりんバス運行開始当初から比べて、確実に交通困難者は増えているので、交通困難者への対応の視点も踏まえて今後のルート案等を考えていくべきではないか。

また、地交会の部会において、生活している側からの意見を汲むような検討を緊急にしたい。

(委員)

意見の中で、交通困難者の話が出ていたが、交通困難者に対して路線バスやコミュニティバスに乗ってくださいと言っても無理がある。

交通困難者については社会福祉協議会が福祉有償運送を行っているので、そちらを利用してもらうべきである。

というのも、コミュニティバスは利用者がどこに行きたいか等、利用者のニーズを汲み取ることが大事であり、例えば通勤通学用、買い物用など、目的別に絞ってバスを運行す

ることも効果的であるからである。

精華くるりんバスに関して言えば、町内全域を周ることは便利ではあるが、買い物に行きたい人、役場に行きたい人など、個別のニーズに細やかに対応しているとは言えない。

例えば、アンケートによって利用者のニーズを把握し、どの時間帯にどのようなニーズがあるのかを分析し、それに対応したルート・ダイヤ設定の検討が必要ではないか。

(会 長)

報告書の中に、A案・B案・C案と3案あるが、これらに沿って今後議論するのではなく、あくまで報告書の内容はベースでしかなく、先ほどの意見にもあったように、住民との話し合い等の中でより良い案を検討していくという理解で良いか。

(事務局)

概ねその通りである。報告書の中の3案をそのまま検討するものではなく、当面は現在の精華くるりんバスのルートを基本として、より良いルート案等を検討していく。

具体的には、狛田駅東特定土地区画整理事業において、精華くるりんバスの「舟」バス停周辺から近鉄狛田駅前までのアクセス道路及び駅前広場が今年度内に完成予定なので、そのような駅へのアクセス環境の変化も考慮しながら、地交会等で利用促進につながるルート案等を検討していきたい。

(委 員)

報告書について、非常によくできているように思うが、住民がコミュニティバスについてどう感じているか、報告書からはよく分からないので、今後、地交会の部会と地元の懇談会等をうまく組み合わせながら議論を深めていただきたい。

私も今日車で町内を走ったが、案外高低差があるので、お年寄りの方などは自転車での移動が難しいと思われる。

それを公共交通だけでカバーするのではなく、ちょっとした助け合いの仕組みを作るのもひとつの手ではないか。

また、コミュニティバスというものは、お年寄りの方にとってはコミュニケーションの場でもある。

人をA地点からB地点へ運ぶだけでなく、住民の生活をやわらかに支えるような役割も持っているのではないか。

3. 平成26年度精華くるりんバス実績報告（資料②）

○平成26年度精華くるりんバス実績について、事務局から報告。

- ・利用者数：70,997人
- ・委託費：29,856,920円
- ・学研都市病院への試験運行を廃止した。（平成26年7月31日）
- ・それに伴い、ルート及びダイヤの改正を行った。（平成26年8月1日）
- ・平成27年3月3日に運行開始10周年を迎え、さらに平成26年12月に利用者数70万人を突破し、それらを記念して無料乗車の実施（平成27年3月7日・8日の土日）と子どもの絵の車内展示（平成27年3月から4月にかけて）を行った。
- ・車内外広告掲載について、町内企業へのPRを行い、新たに3社（神の園、廣学館高校、

南都銀行）と契約した。

（会 長）

平成２６年度の利用者数が平成２５年度と比べて増加したものの、平成２４年度の利用者数にはまだ及ばないということか。

（事務局）

平成２４年度の利用者数には及んでいない。

４．路線バスのダイヤ改正の概要について（資料③）

○路線バスのダイヤ改正について、奈良交通株式会社から報告。

（委 員）

ダイヤ改正の目的のところに、朝は通勤通学、夕方以降は住民の帰宅と企業輸送とあるが、この中に高齢者は含まれているのか。

（委 員）

入っていない訳ではなく、大きく改正した部分についての目的ということである。

（委 員）

時刻表付きのダイヤ改正の周知パンフレットについて、今回の改正で初めて配布していただいたが、非常に便利なので次回もぜひやっていただきたい。

祝園駅のバス待ちスペースについて、夏は日差しが強いので、何らかの対策を講じてほしい。

バスのダイヤについて、中途半端な時間に設定するのではなく、例えば１５分・３０分・４５分というダイヤ設定に統一すると、時刻表を見なくても済むので、利用しやすくなるのではないか。

（委 員）

今回の改正について、前向きに利用者の立場に立って改正していただいて非常に感謝している。

今後様々な企業が精華町内に立地していく中で、できるだけ公共交通の力に頼ろうと、京都府も新たな交通システムを検討している。

それに関しても、前向きにご協力いただけたらと思う。

精華くるりんバスについては、路線バスと共存できる形で運行できるよう町としても努力している。

精華くるりんバスの原点は公共施設間の移動、公共施設へ人を集めることである。

先ほどもご指摘があったように、住民との議論を深めて、より良い運行を検討していきたい。

５．その他（資料④）

○精華くるりんバスにおいて行われている実証実験について、事務局から報告。

６．閉 会